

保険APIとInsurtech業界動向



畑 加寿也

代表取締役
CEO, Co-founder

Twitter: @kazyhata
FB: kazy.hata

15年、保険の商品設計に携わってきました。

保険数理コンサルティング会社Millimanで保険数理に関するコンサルティングに従事後、国内外の投資銀行や再保険会社から、商品開発・リスク管理・ALM等のサービスを保険会社向けに提供。

プログラミング: VBA / Swift / Python / Ruby. 日本アクチュアリー会正会員。米国アクチュアリー会準会員。フィンテック協会理事。ワインエキスパート。京都大学理学部卒(2004)



助けられ、助ける喜びを、 すべての人へ。

会社概要

会社名 株式会社 justInCase, 株式会社justInCaseTechnologies

所在地 中央区日本橋茅場町1-8-1-702

設立 2016年12月, 2019年4月

代表者 畑 加寿也

事業内容 少額短期保険事業, 保険関連ITサービス

受賞歴

TechCrunch(2017)

B-dash camp(2018)

FIBC(2018)

Plug and Play Japan Award (2018)

東京金融賞(2019)

第6回少額短期保険大賞(2020)

*含む株式会社 justInCaseの受賞歴

株主一覧

グロービス・キャピタル・パートナーズ

CoralCapital

SBI Investment

Z Venture Capital (旧Line Ventures)

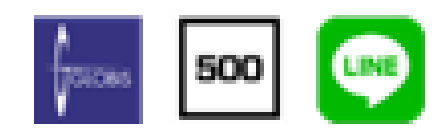
Global Brain

伊藤忠商事

新生企業投資

DeNA

経営陣等



2019年12月に10億円を調達

2016

- justInCase 会社設立

2017

- プロトタイプ開発着手
- 資金調達

2018

- Pre-Series A 調達
- 少額短期保険登録
- 開業
スマホ保険リリース

2019

- justInCaseTech 会社設立
- 1日ケガ保険 リリース
- Series A 調達

2020

- 日本初P2P保険 リリース
- Pontaかんたん保険 リリース
- コロナ助け合い保険 リリース
- 歩くとおトク保険 リリース

2021

- SaaS型システム・joinsure リリース



ITベースのフルスタック保険会社として、多様な強みを活かせる 2社体制

justincase 

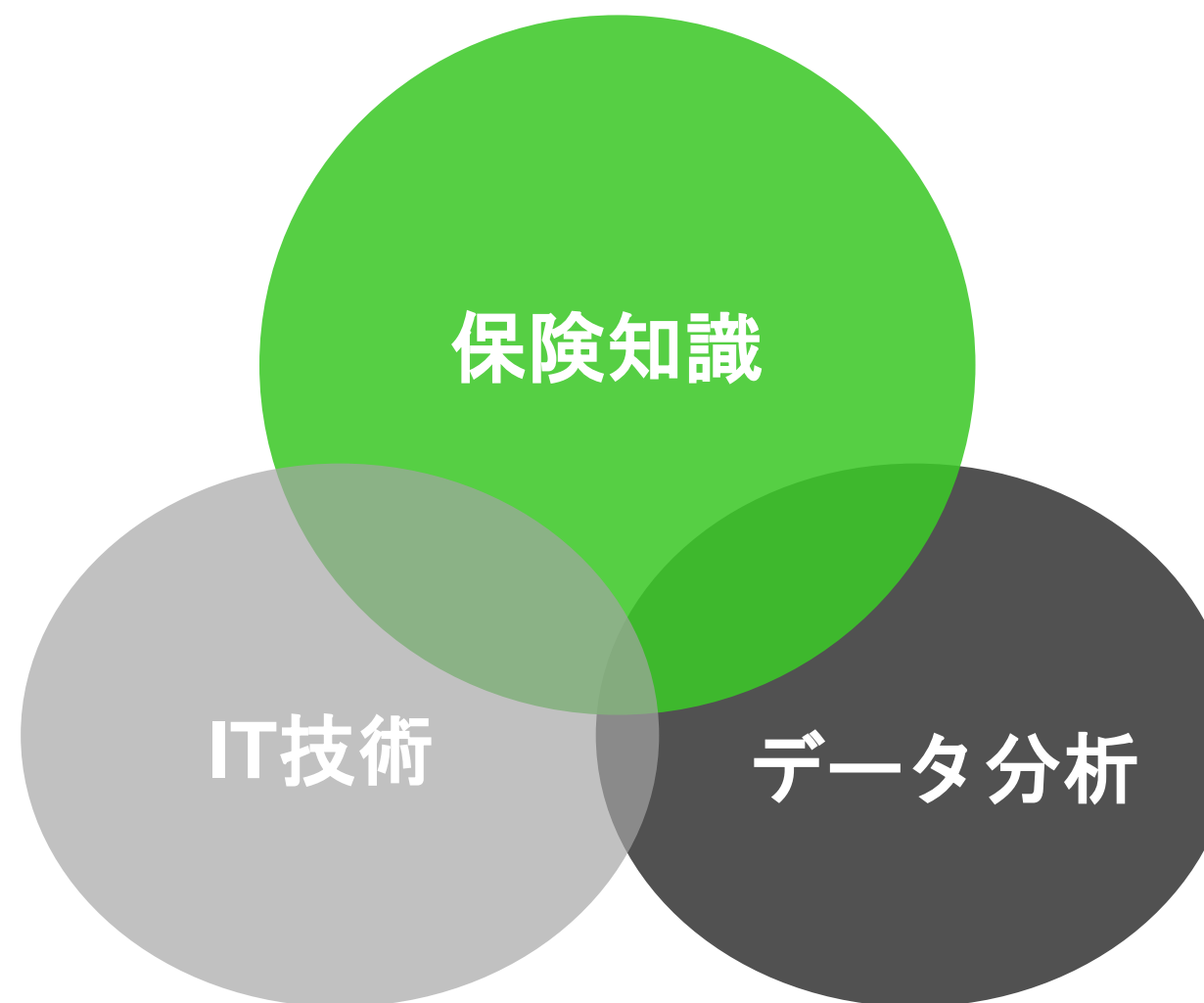
少額短期保険
イノベーティブな商品開発
スマホ完結

toC事業

justincase 
tech

保険関連 ITサービス
保険基盤SaaS
“joinsure”

toB事業



多くの革新的な保険商品を短期間で世に送り出しました

2018/7~



スマホ保険

画面割れ、故障、水濡れ、盗難紛失を補償するスマホの保険。中古スマホやSIMフリースマホも対象。
センサーでスマホの扱い方を把握、丁寧に扱えば扱うほど保険料が割引になる仕組み。
日本初

2020/3~



一日ケガ保険



イベントやスポーツ、家族行事に。1日から、当日でも入れる傷害保険。
提携ポイントで月々の保険料が支払え、ポイントが足りなければクレカ払いで不足分が引き落とされる仕組み。日本初

2020/1~



わりかんがん保険

日本初上陸、わりかんするがん保険。みんな元気なら保険料0円。
規制のサンドボックス制度に基づき、日本初のP2P保険として販売開始。運営に当たり特段の問題が認められなかったことにより、実証実験終了後も販売継続可能に。日本初

2020/5~



コロナ助け合い保険

一泊二日以上の入院で即一時金をお支払い。新型ウィルス感染による臨時施設での療養を含みます。
構想から1ヶ月で実装& 2020年5月にローンチ。柔軟な約款構成をベースに、実現。

2020/9~



歩くとおトク保険

がんなどの生活習慣病に備えつつ、歩けば歩くほど保険料が割引になる保険。
歩数・BMI連動で純保険料が割引される認可を取得したのは、実はこの保険が最初。日本初

2019/9~



クレカ付帯保険チェッカー

お手持ちのクレジットカードに、どのような保険がついているか、今すぐ無料でチェック。日本初



“joinsure”によりレガシー化せず変化に対応出来る保険システムの構築が可能となります



なぜ迅速に商品・サービスのリリースを行うことができたのか

真のDXのためにはツールだけではなく組織と人材の革新・融合が必要です



ニュース

みずほ、システム障害の総括。顧客目線の弱さと企業風土の弊害

清宮信志 2021年6月15日 19:44

4000億円9年かけたシステムで大規模障害

損保ジャパンが2千億円投じた新基幹システム、市場の激変乗り越え「MIRAI」こぎ出す

高槻 芳 日経クロステック/日経コンピュータ

2021.06.02 有料会員限定

基幹システムを7年かけて CobolからJavaに刷新

銀行業界のクラウド積極利用

三菱UFJがAWS全面採用宣言 勘定系移行も「可能性は十分にある」

矢口 竜太郎

2017.03.13

米国でのSaaS 企業の上場

Duck Creek Stock Soars After IPO. What to Know About the Insurtech.

By Luisa Beltran Updated Aug. 14, 2020 5:00 pm ET / Original Aug. 14, 2020 11:41 am ET



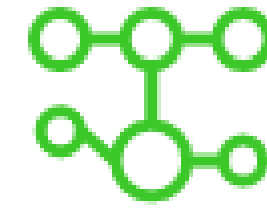
joinsure導入の動機として、さまざまなユースケースがあります



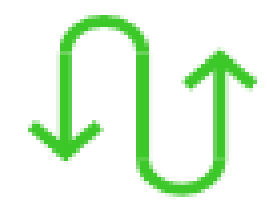
保険商品の開発時間を
短期化したい



販売チャネルの多角化を
したい (デジタルチャネル)



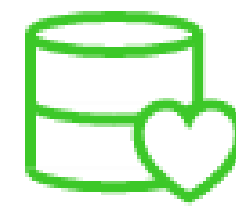
少額短期を新設し
マルチプロダクト展開を
したいがよいサービスがない



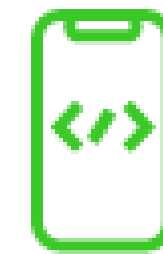
アップセル・クロスセル・
OMO展開を行いたい



保険金請求のデジタル引き受けを
ノーコードで作りたい



データ連携を利用したヘルスケア
サービスの提供をしたい



アプリを作りたいけどマイページ
だけでは使われたい気がする



60種類以上の保険種類に対応し、外部サービスの機能追加オプションもあり、拡張性が高い設計です

圧倒的な商品追加スピード

- ✓ 60種類以上の保険種類を想定した設計であり、わずか数か月での迅速な商品セットアップが可能
- ✓ 保険業務・システムに精通したメンバーが多数在籍するため、要件定義やテストケース策定等も短期間で実施可能

joinsureの想定商品ラインナップ

JICT社の人材

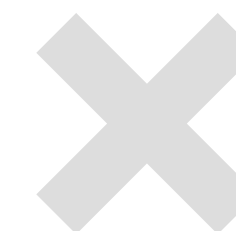
個人
(団体)

定期、収入保障、
逓減定期、逓増定期、
養老、学資、終身
個人年金

介護、
医療、
がん、
特定疾病

所得補償、
傷害、海外旅行、
火災、地震、
自動車、バイク

労災、費用、
動産総合、運送
各種賠償(使用者、PL)



- 国内大手生損保出身者や、保険会社のシステム子会社への常駐経験者が複数在籍
- エンジニアだけでなく、デザイナーやWebマーケターも自社で雇用

法人

外部サービス連携

- ✓ モバイル決済や生体認証等の機能追加オプションがあり、安価に機能追加が可能
- ✓ 実際の実装経験から予め課題となる点を把握しているため、迅速な対応が可能

ログイン認証機能

- 顔認証や指紋認証によるマイページログイン
- FaceID認証については、実装経験あり

本人認証機能

- eKYCの一つとして、マイナンバーによる本人確認の実施

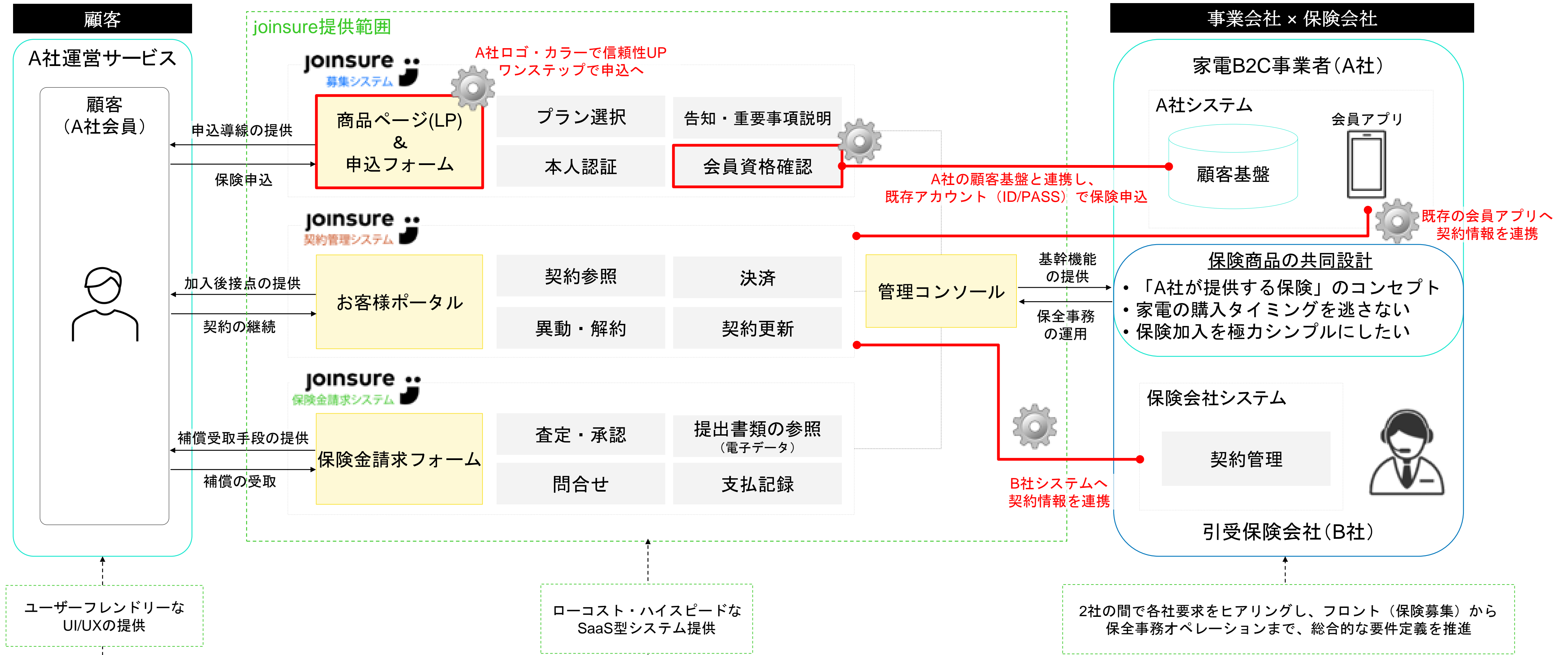
モバイル決済

- モバイル決済による保険料払込
- Pontaポイント払については、実装経験あり

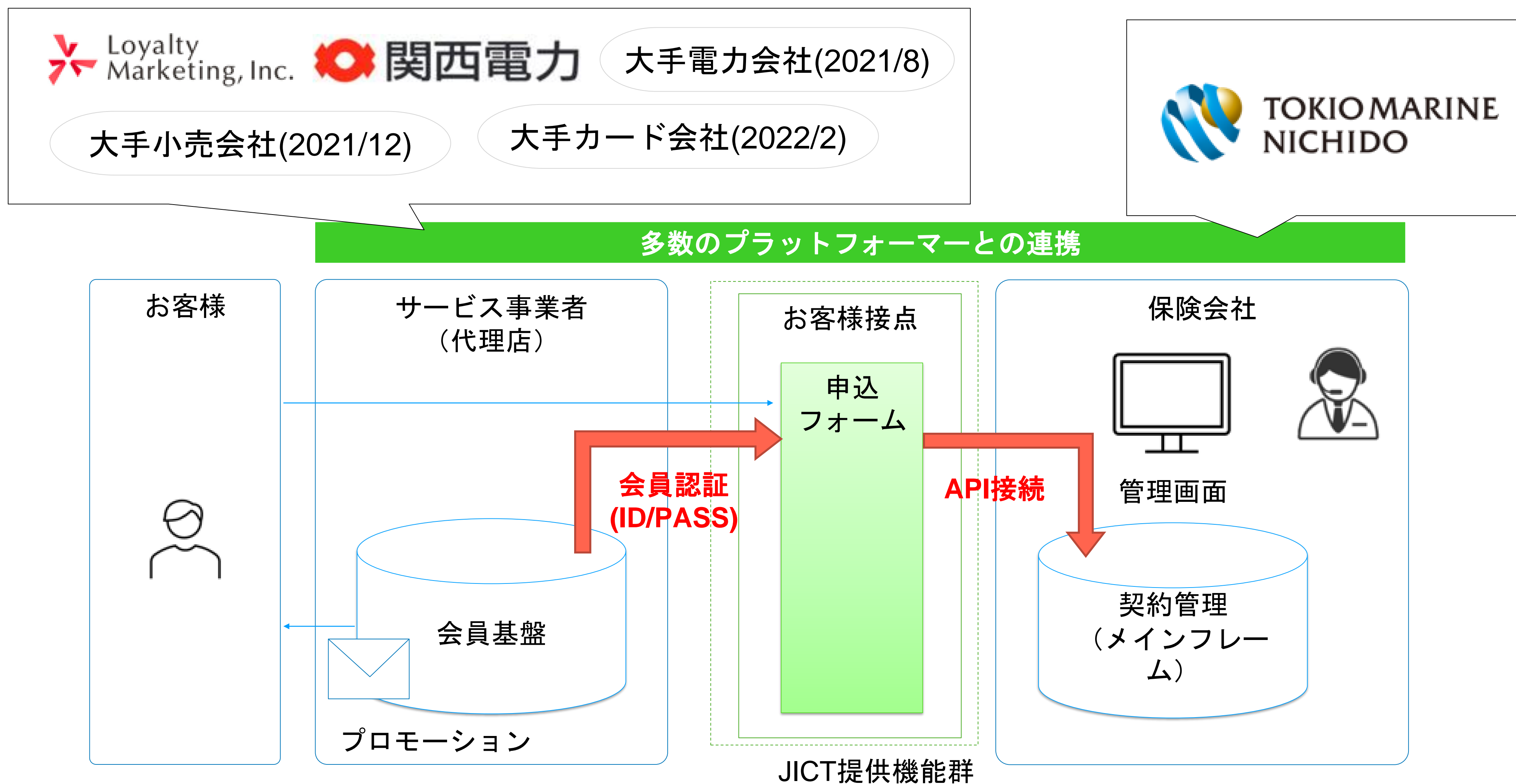


- 巨大な会員基盤を活用したデジタル保険の例。事業者側で把握可能な顧客の家電購入タイミングに合わせ、保険の案内を行う。
- オリジナルの保険商品を、A社の会員アカウントと連携することでA社サービスからのシームレスな保険加入を実現。

凡例：
 joinsureで提供可能なカスタマイズ



- 会員向けの独自保険の募集について、Webフロントを提供。保険会社メインフレームへの直接的なAPI連携を実現。
- 保険加入のCVR向上のための分析や施策を実行するサービスも提供



保険ITインフラの変革必要性と方法論

カテゴリ	詳細	メリット・特徴	DX人材	リスク
A) 完全リプレイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既存レガシーシステムとは別に新しく作り替える ■ 業務用件は時代に沿ったものに置き換えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最新のテクノロジーを適用しやすい。最新の言語やフレーム体系でメンテナンスもしやすくなる ■ 柔軟かつ競争力の源泉となり得る ■ must-have機能を中心になりやすくイノベーションが逆に起こりにくい可能性もある 	<ul style="list-style-type: none"> ■ エンジニアを中心としたデジタル人材を社内に用意する必要性 ■ 3つの中で最も人材用件が厳しい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 完全移行するため最も業務リスクが高く、時間もかかる
B) リファクタ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既存レガシーシステムをベースに作り替える ■ 既存システム上に外部接続ができるような”アダプター”を適宜作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 機能性を変化させることなく言語体系や構造を変化させる ■ CobolやFortranをJavaに変換することもここに含まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ A)完全リプレイスよりは必要となる社内デジタル人材は少ないが、社外Slersの膨大な関与が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ リファクタをしたとしてもドキュメンテーションや保守性が悪い可能性は残る
C) 外部パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外部ベンダーが提供する既存システムを利用し、既存システムと入れ替える ■ 適宜カスタマイズ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ コストを他社とシェアすることになるため、廉価に利用が可能 ■ 規制対応や革新的な機能も自動的にアップデートされる可能性 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 何でもカスタマイズしてしまうとメリットが薄れてしまうため、社内PMにITに強い人材が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ A) 完全リプレイスよりも移行コストが低い



justincase ;